

広い敷地に4つの棟が並ぶ現場。  
1号棟=赤、2号棟=青など各棟の  
テーマカラーを決め、防音シートに掲  
示。階数を書き入れて、進捗状況も  
わかりやすくしている。



# GENBA INNOVATION

現場イノベーション

創意工夫に富む現場の取組みやマネジメントの最前線を追う!!

工事概要	
工事名	(仮称)MJR香椎浜四丁目新築
工事場所	福岡県福岡市東区香椎浜四丁目5番地7号
発注者	九州旅客鉄道(株)
設計者	(株)Gデザインアソシエイツ
監理者	(株)Gデザインアソシエイツ
施工者	西松建設(株)
主要用途	共同住宅(地上14階 420戸)
構造	鉄筋コンクリート造
敷地面積	19,742.05m <sup>2</sup>
建築面積	4,052.16m <sup>2</sup>
延床面積	37,529.06m <sup>2</sup>
最高高さ	44.89m
全体工期	2020年1月17日~ 2023年3月10日



完成予想パース (提供: 西松建設(株))

# 人は「自ら動く」! 「人的管理」から「心的管理」へ 数百人規模を掌握した現場運営法 (仮称)MJR香椎浜四丁目新築

多くの協力会社、日ごとに入れ替わる数百名の技能者たち…。建設現場で全員を統率して一つの目標に向かわせる難しさは、元請会社にとって日常的な課題だ。今回紹介するのは、大規模な現場で、サインや色分けなどの職場環境整備によって細かい指示・指導なしに効率的な管理を実施している事例だ。

## 最盛期で技能者四〇〇名計四棟の大型共同住宅

福岡市東区のベッドタウンで建設している、総戸数四二〇戸の分譲マンション。一号棟から四号棟までの四棟が約二畝の広い敷地に並び立つ。取材時は、すでに各棟が一〇階以上立ち上がり、I期工事に相当する一号棟・二号棟のうち一号棟が上棟間近という状況だった。

周辺には住宅地や小学校・保育園などが多く、様々な点で配慮が必要だった。取組みを推進した西松建設(株)九州支社の足達良太所長に話を聞いた。

「まず気を付けたのは、泥や粉じんの飛散によって近所にご迷惑をお掛けしないこと。着工してすぐに場内を敷鉄板で覆い、工事用車両の駐車場や朝礼会場は仮設アスファ



西松建設株式会社  
九州支社 香椎浜出張所 所長

足達 良太 Ryota Adachi

ルトで舗装しました。杭工事の前からその状態だったので、出入りするダンプなどのタイヤがほとんど汚れず、タイヤ洗浄機もあまり活用されなかったくらいです」  
敷鉄板やアスファルトには、駐車位置や歩道と車道を分ける線だけでなく、横断歩道も描かれている。

「安全なことはしない」「みだりに物を置かない」といった意識が高まったと思います」  
場内には「SAFETY ROAD」「WASH」などインパクトのあるサインも目立つ。

「細かく説明をしなくても、何かを洗おうと思ったら『WASH』へ、ゴミを捨てようと思えば『ゴミSTATION』へ行こう、となりますよね。とにかくわかりやすく、迷わない現場を心掛けました」  
一号棟から四号棟まで、各棟の足場のシートを色分けしたのも、視認性を良くするためのものだろうか。  
「外部が足場で覆われていると、長い一つの建物に見えて、どれが何号棟かがわかりづらいのです。そこ

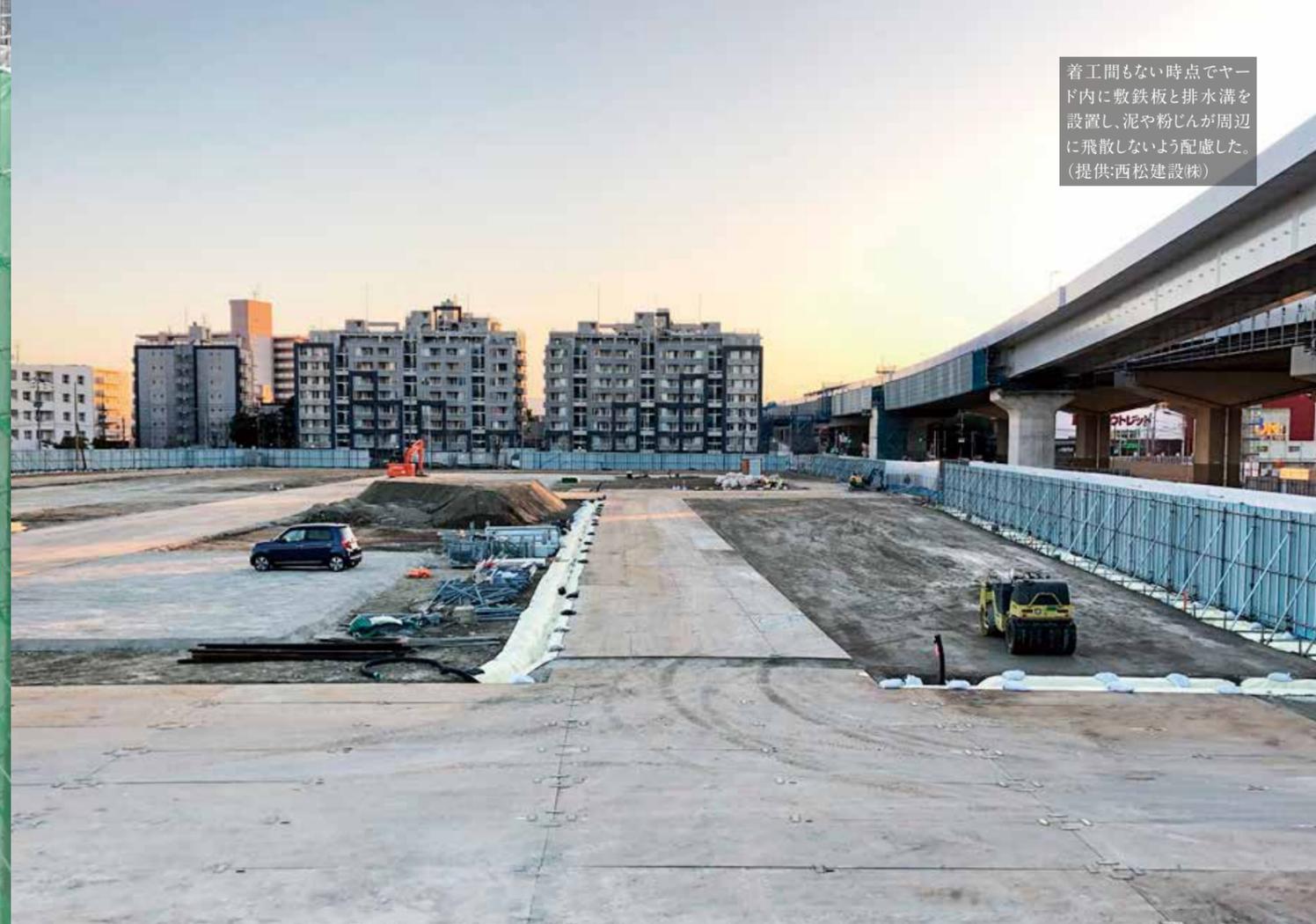
で遠くからでも目立つ色で分けて、更に今何階まで工事が進んでいるのかをわかるようにしました。これだけ大きな建物なので、現場の外からもよく見えます。近隣の方々に対して、工事がどこまで進んだかを見ていただくという意味合いもあります」

働くスタッフへの足達所長の配慮は、朝礼会場にも及ぶ。  
「朝礼は、新型コロナウイルス対策で三〇〇人を半分に分け、一五〇人ずつで二回実施しています。夏は熱中症対策として、会場に日除けシートをかけられるようにしました。会場の地面に『×印』が書いてあるのは、距離を取って立つてもらうための目印です。これも一種の『誘導』ですね」

現場の最上階から見下ろした現場のヤード全景。ループ車道、歩車分離、横断歩道などが見取れる。(提供:西松建設株)



着工間もない時点でヤード内に敷鉄板と排水溝を設置し、泥や粉じんが周辺に飛散しないよう配慮した。(提供:西松建設株)



朝礼会場の頭上にかげられた「日除けシェード」。夏の直射日光を遮り、風が強い日などは折り畳むことも可能。足元の×マークは、朝礼時に密にならないための立ち位置を示している。

数々のサインや看板が目につく現場のヤード。視覚に訴えかけることで、外国人も含めた大勢のスタッフが迷いなく作業に従事できる。





広大なヤードを生かし、バルコニーなどの複雑な形状の部材をプレキャスト(PC)化して地上で製作した。上の写真は転用に有利な鋼製のシステム型枠、下は脱型した部材のストックだ。(いずれも提供:西松建設株)

生ずる騒音を低減できる。  
「技能者の中には、やはり従来のやり方を好んで新しい工法に消極的な方もいます。でも実際にやってみると、人員も手間も明らかに省力化できています。私の実感では一割くらいは効率化できたと思います」  
こうした働きやすさと労務削減の効果として、現場の四週六閉所を実現。「働き方改革」においても実績を残した。

最後に、足達所長にこの現場での取り組みの根底にあるテーマを聞いた。「まず職員、協力会社、みんなの意識を変えたいということと作業効率の向上を検討しました。その結果、一から十まで指示するよりも、視覚に訴えたり心理的に誘導したりして、「言われたからではなく、自分からやっている」という気持ちで工事に向き合ってもらおうという考えに至りました。現場のルールをただ押し付けるのではなく、「借りたものは元の場所に戻すほうが気持ちいい」「ゴミは決まった場所に捨てればスッキリする」という心理面に働きかけたことで、現場の運営と効率化が両立でき、われわれ元請も業務に集中できたのではないかと思います」



現場に入場する全員が通る「SAFETY ROAD」。作業台の上を通ったり安全帯を確認したりして、健康状態と装備を効率的にチェックする。

## 作業効率向上のための 技術面でも新たな手法

斬新な環境整備の一方で、技術的にもいくつかのチャレンジを行っている。高効率化を図っている。現場代理人の久々宮章太氏に代表的な事例を挙げてもらった。

「このマンションには完成時、四五〇台以上停められる平面駐車場となる広い施工ヤードがあります。これを生かさない手はないと思います。バルコニーや廊下スラブの鼻先部といった溝を含む複雑な形状の部材をプレキャスト(PC)化して、敷地内で製作するサイトPCにしました」

同じ形の部材を大量に製作するならば、PC化による省力化・コストダウンが有効だ。しかも耐久性の



西松建設株式会社  
九州支社 香椎浜出張所 現場代理人  
久々宮 章太 Shota Kugumiya



アルミ製のシステム型枠を使用した下階の状況。存置中、通常より少ない支保工で支えられる。(提供:西松建設株)

高い鋼製型枠を使用し、サイトPCヤードでは揚重機を使わず、ミキサー車から直接打設し、運搬はフォークリフトで行うことで、生産性向上とコストダウンにつながった。  
「それと、一部ではありますが、スラブにアルミ製のシステム型枠を採用しました。材料費だけを比べたら割高ですが、安全性や労務削減、転回回数などを総合すれば費用対効果はあったと思います」

この型枠はピンとクサビで連結できるため、下階から作業台に乗って設置が可能なので高所作業を低減できる。また脱型時も安全に一枚ずつ簡単に外せることで、解体時に発

## 現場の空気、環境を整えた時 働き手の意志は統一される

### Webサイト「WorkStyle Lab」で動く現場を見よう!!

建設業界の働き方改革を伝えるサイト「WorkStyle Lab」では、「現場イノベーション」と連動したコンテンツを随時掲載中です。取材先の更に詳しい取り組みやこぼれ話など、誌面に載せきれなかった内容を動画などで紹介します。所長さんや副所長さんなどの想いを生の声で、また実際の工事現場の様子を臨場感あふれる動画でぜひご覧ください。たくさんアクセスお待ちしております。



WorkStyle Lab  
<https://www.nikkenren.com/2days/workstylelab/>

